台湾の港と船（２）　～ 港巡り～

会員　福冨　廉

前回レポートしたように、台湾の日本製フェリーに乗ることを目的として同国に行ってきたが、その際の港巡りの様子について、レポートしたい。筆者の場合は、客船やフェリーのみならず、船全般から海事関係の多くの事柄に興味があるので、その辺りまで言及することをご容赦願いたい。特に、台中港では、かつての日本客船との出会いがあった。

１．基隆港

基隆に行くと必ず行く中正公園へ行った他、今度も基隆駅から港沿いに東の八斗子漁港まで歩いてみた。途中には道路に迫ったコンテナ・ヤードや小さな造船所や漁港、特にカラフルな建物や海鮮食堂街で観光地化した正濱漁港、国立台湾海洋大学の施設等々、色々見るべきものがあって楽しい。ちなみに、基隆港の東岸クルーズターミナルの奥にはレストラン街とその屋上に公園、麗都蝶客花園（LIDO DECK GARDEN）があって、入港してきた「RESORTS WORLD ONE」を目の前に見られる等シップウォッチングには最適だった。

「RESORTS WORLD ONE」（元、スタークルーズの「SUPERSTAR VIRGO」）
筆者がこの船名になって見るのは初めてだったが、ファンネルが３本になっているのには、ビックリした。
この時期は、基隆を起点に、どこにも寄港しない周遊クルーズや、沖縄・九州方面へのクルーズを実施しているようだ。
今回も、フェリー「新臺馬」の乗船直前に出港して行って、翌々日、２泊の周遊クルーズから午前 11 時に入港してきた。
麗都蝶客花園から（上、左）、中正公園から（右）

左から「新臺馬」、「RESORTS WORLD ONE」、「臺馬之星」　フェリー2 隻は台風避難で 2 ショットが可能に

麗都蝶客花園から見た「臺馬之星」

台湾最大の巡視船の 1 隻「新竹」（CG5002）奥が麗都蝶客花園

ミスターロバーツの時代？の軍艦「大萬」（551）1942 年米国製

カタマラン型巡視船と軍艦（同型）

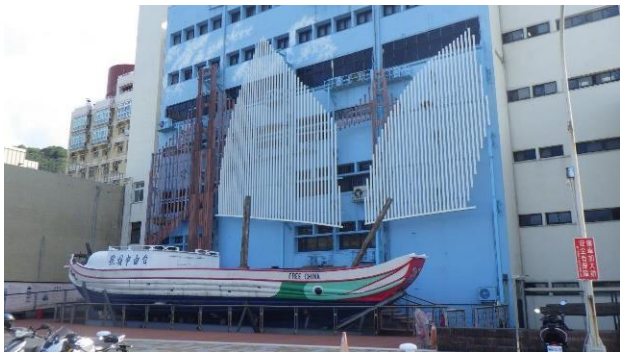
基隆の市街地に最も近いコンテナターミナル

阿根納造船廠遺構（正濱漁港の傍に有り）

観光拠点の正濱漁港の建物、手前は官庁船群

国立台湾海洋大学正門

国立台湾海洋大学の訓練施設

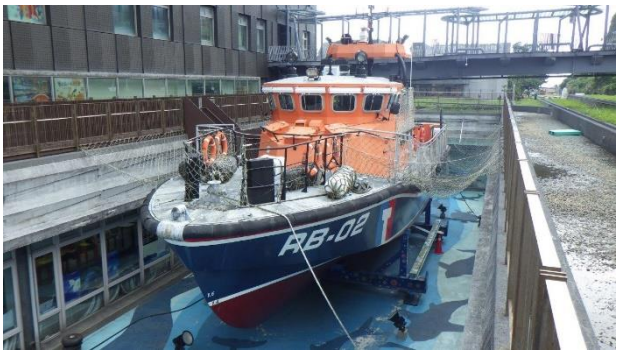


1890 年に建造された古式木造帆船、1955 年に「自由中國號」として基隆から横浜経由でサンフランシスコまで航海した
2009 年にアメリカで放置されているのが発見され、2020 年に台湾海洋大学の正門脇のこの場所に移され、展示されている

八斗子漁港から基隆島巡りに行く遊覧船「鉅隆號」

八斗子漁港に保存されているトロール船「海功」
5 年前はもっときれいで、船底等を見られたのだが

八斗子にある国立海洋科技博物館



博物館外にある元、海巡署捜索救難艇「PB-02」

国立海洋科技博物館の内部　館内は、造船、海運、水産、海洋開発、海洋生物等、テーマ毎に海洋全般の展示がされている
左は造船、かつての船の科学館のような展示。右は船の歴史。博物館の他、郷土史や水族館等の建物もある。

２．高雄港

かつては立ち入りが難しかっただろうこの港、今では西の第１港口からクルーズ・ターミナル付近の先の奥までレジャー拠点となっており、LRT も全線開通して歩き回ることができる。台風の前後に歩き回ったので、その時のシップウォッチングの成果をご披露したい。

高雄港の中央部にある渡船、前鎮～中洲航路
高雄市輪船「平安」
人／自転車／バイクが乗船でき、人はカード使用で１人 30NTD（約 140 円）

「平安」の船内（下左）
真愛ふ頭に陸揚げされた旧船「壽山」（下右）

鼓山～旗津航路 高雄市輪船「旗鼓二號」

同左「雄棧１號」2024 年１月新造の電動フェリー

遊覧船「蝴蝶公主」（左）、「占岸壹號」

遊覧船「長安二號」元、近鉄志摩観光汽船の「パイオニア」
以前は赤と白だったが

遊覧船「光栄」

東港～小琉球航路の高速艇「泰富１號」
台風避難から母港に戻るところではないかと。

海巡署カタマラン型巡視船「安平」（CG601）（左）
と「永康」（CG610）　ウォタージェット推進
近くで船底を見るとすごい迫力がある

台湾海軍「馬公」（1805）1982 年米国製・購入

３．台中港

以前より、この港を拠点に、元、東海汽船の「はまゆう丸(2)」が「金門快輪」として存在することがわかっており、今回、立ち寄ることにした。同船は同港の旅客ターミナル前に停泊していたが、不定期の運航のようで、この時点では2週間ほど停泊したままだったようだ。なお、残念だったのは、同港は工業港なので旅客ターミナルと隣の三井アウトレットパークの部分しか立ち入ることができる場所が無く、船尾からの撮影だけになった。また、同港は大陸棚開発の拠点にもなっているらしく、大きな作業船が何隻も停泊していた。

「金門快輪」（元、東海汽船「はまゆう丸(2)」

海巡署「台中」（CG1002）、大型作業船「BLUE WIND」

作業船「TSS PIONEER」（中央）と台中港旅客服務中心
左の赤いランプウェイは中国本土行フェリー用（休航中）

４．台北・淡水

台北郊外の観光地として有名だが、今まで行ったことが無かった２つのことを体験・見学してきたので、ご紹介したい。

（１）八里の渡し

淡水の中心街（淡水老街）から目の前の淡水河を渡って向かいの八里老街を結ぶ渡船。人の他、自転車とバイクを乗せられるが、川の真ん中に砂洲があるので、大きく下流側に回り込んで 20 分程度かかって、行き来していた。片道 40NTD（約 190 円）。

渡し船「順風壱佰陸拾捌號」（順風 168 号）八里老街側

渡し船「順風 128 號」

（２）淡江大学海事博物館

淡江大学は台湾で一番の私立大学だそうだが、かつては長栄海運（EVERGREEN）の肝いりで航海と海洋工学の教育が行われており、そのために造られた船の形をした建物が海事博物館として残され、無料で公開されている。しかしながら、メンテナンスもろくにされておらず、雨漏りもするような寂しい施設だった。今は船関係の教育は行われておらず、そうした教育は、近くの台北海洋科技大学と基隆の国立台湾海洋大学で行われているようだ。

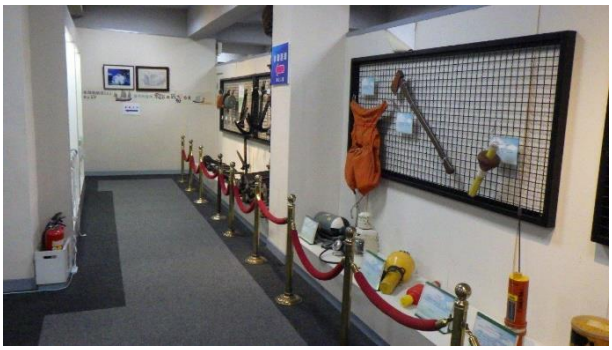
1F は船の歴史を示す帆船模型と古い航海器具、2F は往時の軍艦と商船の模型、4F が船の操舵室を模した設備という構成だった。航空関係の教育もあったのか、建物の周囲には古びた航空機も何機かあった。

なお、長栄海運（EVERGREEN）の海事博物館としては、台北駅の隣の台大医院駅の傍に大きな長栄海事博物館があるが、物静かな展示の雰囲気はなんとなく似ていた。

淡江大学海事博物館の外観（できた当初は樹木はほとんど無かったようだが）

海事博物館の入口（建物の左舷側）

4F 航海船橋内部



1F　古い航海器具の展示室

2F 展示室